



Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 55-145426

Laid-Open Date: October 18, 1980

Japanese Utility Model Application No. 54-44246

Filing Date : April 4, 1979

Inventor : Yukiaki Tani

Applicant: Asahi Insatsu Shiki Kabushiki Kaisha

PAPER BOX WHICH UTILIZES PAPER SEPARATION PROPERTY

A paper box of this invention uses a separation property of paper. In the paper box, each of at least a front surface 1 and side faces 2 and 3 is formed by two plates. That is, the front surface 1 and the side faces 2 and 3 are formed by inner plates 1A, 2A, and 3A and outer plates 1B, 2B, and 3B. On the other hand, a single swing type fitting lid 10 is formed by using a folding line 20 that connects an upper lid 4 and a back face 5 to each other as a supporting point and providing break lines 21 that diagonally extend down on the outer plates 2B and 3B of both the side faces from both ends of the folding line and are connected to each other on the outer plate 1B of the front surface. Moreover, rulings 2a and 3a in a notch-like shape are provided on the inner plates 2A and 3A that are arranged in the inside of both sides of the fitting lid, respectively. The inner plates 2A and 3A at the side faces of the fitting lid are bonded to the outer plates 2B and 3B in the portions having the notch-like shape, respectively.

⑪ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭55—145426

⑨ Int. Cl.³
B 65 D 5/54

識別記号

庁内整理番号
6452—3E

⑬ 公開 昭和55年(1980)10月18日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 紙の剝離性を利用した紙箱

富山市黒崎五〇番地朝日印刷紙器株式会社内

① 実 願 昭54—44246

① 出 願 人 朝日印刷紙器株式会社

② 出 願 昭54(1979)4月4日

富山市黒崎五〇番地

⑦ 考 案 者 谷幸明

⑦ 代 理 人 弁理士 若林 弘

⑮ 実用新案登録請求の範囲

少なくとも前面1と両側面2, 3を各内板1A, 2A, 3A、外板1B, 2B, 3Bの二枚で構成し、一方上蓋4と背面5とを連設する折曲線20を支点とし、かつ該折曲線の両端から前記両側面の外板2B, 3Bを斜降し、前記前面の外板1Bで結ぶ破断線21を設けて片開きの嵌め蓋10を構成し、かつ該嵌め蓋両側内側の内板2A, 3Aに切り欠き形状に刻線2a, 3aを設け、かつ当該切り欠き形状部で嵌め蓋側面の内板2A, 3Aと外板2B, 3Bとを貼着して成る、紙の剝離性

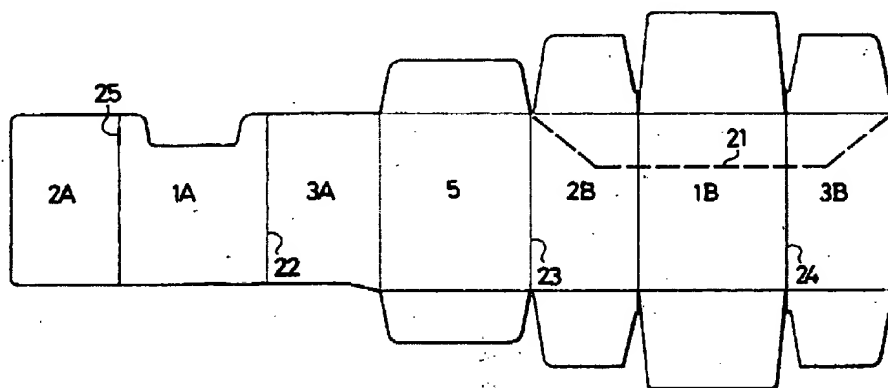
を利用した紙箱。

図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は展開図、第2図及び第3図は折曲糊付の順序を示す説明図、第4図は封蔵状態の斜視図、第5図は蓋を開いた状態の斜視図である。

1……前面、2, 3……両側面、2a, 3a……刻線、1A, 2A, 3A……内板、1B, 2B, 3B……外板、4……上蓋、5……背面、10……嵌め蓋、20……折曲線、21……破断線。

第1図



公開実用 昭和55—145426



実用新案登録願

昭和 54 年 4 月 4 日

特許庁長官 殿

1. 考案の名称 ^{フリガナ} 紙の剥離性を利用した紙箱

2. 考案者

^{フリガナ}
住所

富山市黒崎五〇番地

^{フリガナ}
氏名

朝日印刷紙器株式会社内
谷 幸 明

3. 実用新案登録出願人

^{フリガナ}
住所

富山市黒崎五〇番地

^{フリガナ}
氏名(名称)
(国籍)

朝日印刷紙器株式会社
取締役社長 朝 日 重 幸

4. 代理人 干 110 干 845-4847

住所

東京都台東区東上野 5 丁目 1 番 8 号

氏名

弁理士 (6318) 若 林

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1 通
(3) 願書原本 1 通

(2) 図面 1 通
(4) 委任状 1 通

方式
審査

54 044246

125226

明 細 書

1. 考案の名称

紙の剥離性を利用した紙箱

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 少なくとも前面(1)と両側面(2)(3)を各内面(1A)(2A)(3A)、外面(1B)(2B)(3B)の二枚で構成し、一方上蓋(4)と背面(5)とを連結する折曲部(6)を支点とし、かつ該折曲部の両端から前記両側面の外面(2B)(3B)を斜降し、前記前面の外面(1B)で結ぶ微断部(7)を設けて片開きの嵌め蓋(8)を備え、かつ該嵌め蓋両側内側の内面(2A)(3A)に切り欠き形状に刻線(2a)(3a)を設け、かつ当該切り欠き形状部で嵌め蓋側面の内面(2A)(3A)と外面(2B)(3B)とを貼着して成る、紙の剥離性を利用した紙箱。

3. 考案の詳細を説明

本案は予め貼着した部位が開蓋時に紙の剥離作用によつて剥れるようになし、これによつて珪藻粉等その個破還の如き優れた効果をもたらすようにした紙箱に関する考案である。

此等のこの種紙箱は予め箱本体と蓋を開閉自在に構成し、閉蓋状態で例えばプラスチックフィルムで封蔵する等の手段に依つていた。

本発明は、このような手間を掛けることなく、箱の側壁を二枚合せとし、外側の紙板に仮断線を設けるとともに二枚の紙板の一部を貼着し、開蓋時に当該貼着部位が紙の割離作用で剥れて蓋付容器となるようにしたものである。

以下本発明に係る紙箱につき詳説するに、その構成は、少なくとも前側面(1)と両側面(2)(3)を各内板(1A)(2A)(3A)、外板(1B)(2B)(3B)の二枚で構成し、一方上蓋(4)と背面(5)とを連結する折曲部(6)を支点とし、かつ該折曲部の内端から前記両側面の外板(2B)(3B)を斜降し、前記前側の外板(1B)で結ぶ仮断線(7)を設けて片開きの嵌め蓋(8)を構成し、かつ該嵌め蓋両側内側の内板(2A)(3A)に切り欠き形状に刻線(2a)(3a)を設け、かつ当該切り欠き形状部で嵌め蓋側面の内板(2A)(3A)と外板(2B)(3B)とを貼着したことを特徴とする。

図面は本発明の一実施例を示すもので、第1図は展開した一枚返きの盛紙を示し、第2図及び第3図は折曲糊付の順序を示す説明図、第4図は盛包装物を収納して封藏した状態の斜視図、第5図は破断線に沿って破つて嵌め蓋を開いた状態の斜視図を示す。

なお図示の実施例は、既設のサックマシン（折りたたみ糊付機）を用いて簡単に通するよう、一枚の盛紙を折り曲げ糊付けだけで本発明の盛紙が実現できるよう工夫してある。

折曲げ糊付けの順序は、まず側面内板(2A)の外表面の一端辺に糊付けし、折曲線に沿って折る（第2図）。このとき前述の切り欠き形状の剝離(2a)部分は、側面内板(2A)（なおもう一方の側面内板(3A)についても同様）の上記糊付箇所上端に位置するように取付ける。

次に側面内板(3A)の外表面の一端辺に糊付けし、折曲線に沿って折る（第3図）。

次いで折曲線に沿って折り、これを展開して底蓋を糊付けし、盛包装物を収納した後、上蓋を糊

付けして封蔵する（第4図）。

そして収納した被包装物をとり出すには、横断部(4)を破り開蓋する。このとき内側面(内蓋)の前記刺部(2a)(3a)の切り込み形状部（これは蓋(1)の内側面と横付けされている）で剝離が生じ、開閉自在の片開き蓋(10)が形成される（第5図）。

なお図中図は蓋の係止作用をなす切り込みである。

本案に係る包装の構成は叙上の如くであるが、その構成から次のような特有の効果が生ずる。

即ち本案は前(1)と内側面(2)(3)を内蓋、外蓋の二枚で構成し、外蓋に設けた横断部(4)を破つて片開きの蓋付容器となすから、横断部(4)を破る前は完全な封蔵状態となっており、しかも蓋(1)の内側面（外蓋）(2B)(3B)と内蓋(2A)(3A)とは刺部(2a)(3a)の切り欠き形状部で貼着してあるから運搬中に横断部(4)が破れて蓋が開く等の事故がおきない。

また開蓋時には、上記内側面の内蓋(2A)(3A)の切り欠き形状部が剝離して蓋が開き、その後

は開閉自在の紙種として機能する。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一例態を示すもので、第1図は展開図、第2図及び第3図は折曲翻付の順序を示す説明図、第4図は封滅状態の折伏図、第5図は蓋を開いた状態の折伏図である。

(1)	前	面
(2)(3)	内	面
(2 _a)(3 _a)	...	割	部
(1A)(2A)(3A)...		内	面
(1B)(2B)(3B)...		外	面
(4)	上	蓋
(5)	背	面
(6)	嵌	め
(7)	折	曲
(8)	破	断

実用新案登録出願人

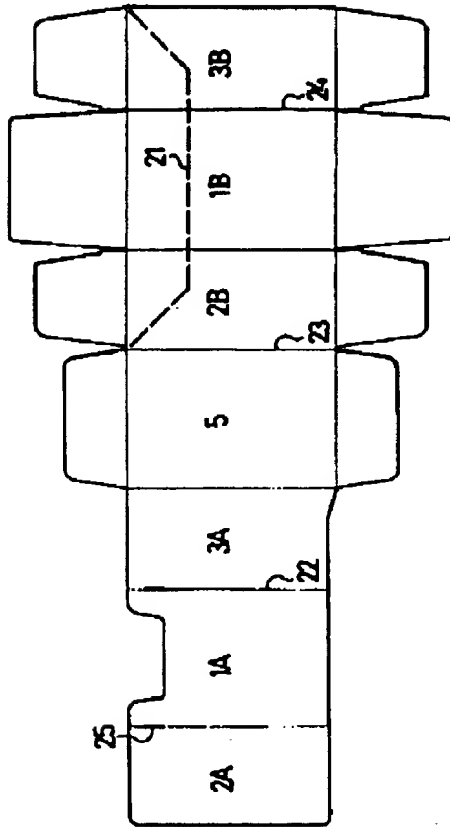
新日印刷紙器株式会社

代理人 弁護士

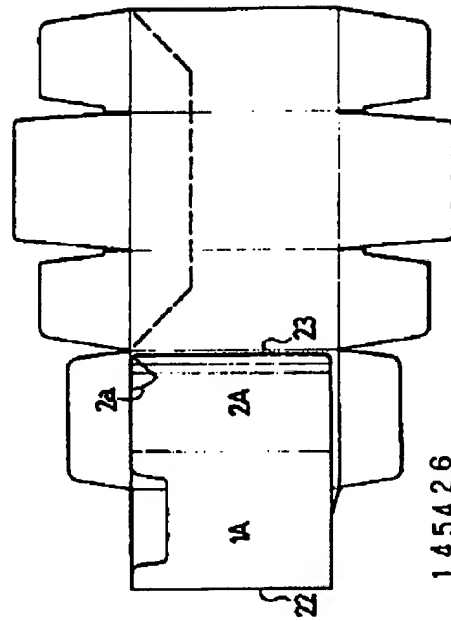
右 林 弘

BEST AVAILABLE COPY

第 1 図



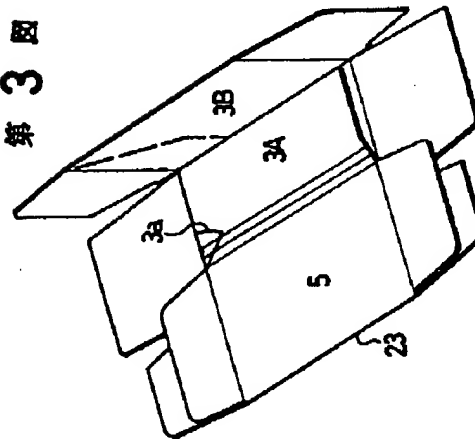
第 2 図



145426

1/2

第 3 図

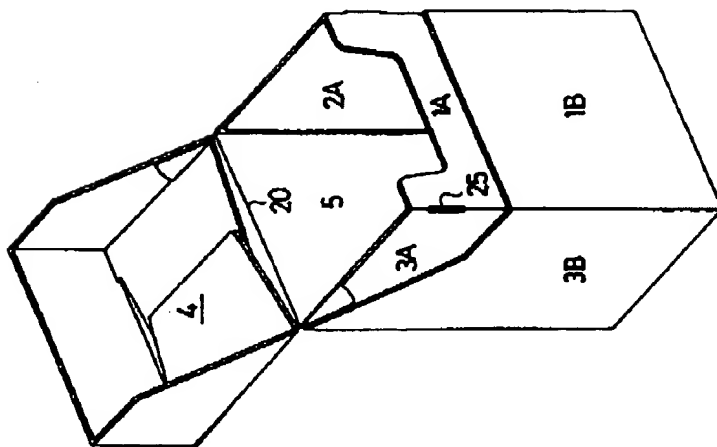


実用新案登録出願人・朝日印刷紙器株式会社

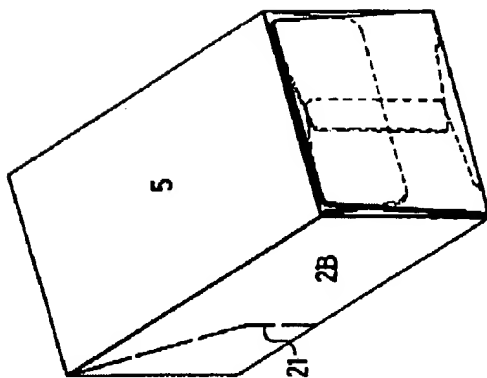
代理人 弁理士・若 林 誠

BEST AVAILABLE COPY

第 5 図



第 4 図



145426

実用新案登録出願人・朝日印刷紙器株式会社

代理人 弁理士 若林 雄